

雲塘二号窖藏

1977 年 8 月、雲塘一号窖藏の南約 20m、雲塘村南の何家溝崖辺の整地時に発見され、銅瑚 1 件が出土、周原博物館に収蔵された。

伯公父瑚

雲塘二号窖藏出土。周原博物館蔵。

通高 19.6 cm、

底盖口径平均 28.4×23 cm、

腹深 6.4 cm、重さ 5.75 kg。

器と蓋の造形は同じ。長方形で、腹は斜めに収め、圈足の各辺には缺があり、両側には一対の環耳がある。瑚は黍、粳、糯、粟などの主食を盛る器である。器は上下に分かれ、各々の形と大きさは同じである。



この瑚は伯公父の作ったもので、伯父瑚と呼ばれる。口縁は重環紋を、腹は環帶紋、圈足は垂鱗紋、蓋の頂部は大きな竊曲紋で飾られている。

蓋と器身には同一の 10 行 61 字の銘文が見られる。銘文によれば、伯公父が吉金と呼ばれていた最上の銅を選んで宝瑚を鑄造し、上質の穀物の飯を盛って饗宴を行い、王及び諸侯の長寿多福を祈念したことがわかる。

伯大師小子伯
公父作盥揮之
金佳鑄佳鑪其
金孔吉亦玄亦
黄用盛糕稻糯
梁我用召卿事
辟王用召諸考
諸兄用祈眉壽
多福無疆其子子
孫孫永寶用享

瑚は簠ともいう。従来「簠」と称していた。

しかし、『文物』86 年 6 期 87 頁「周原出土伯公父瑚」、『陝西出土商周青銅器』第三冊、伍士謙『伯公父簠銘文考釈』四川大学編、『古文字研究論文集』などによると、

“伯公父瑚では自ら「盥」と称している。同類の器物には「匡」とある。「盥」「匡」は「瑚」の本字である。伯公父瑚の出土によって、金石学者が「簠」と称したことの誤りが更に証明された。”とあり、「瑚」と称すべきであるとしている。